

公表時間

6月18日(金)8時50分

2010.6.18

日本銀行

---

# 政策委員会 金融政策決定会合 議事要旨

(2010年5月10日開催分)

---

本議事要旨は、日本銀行法第20条第1項に定める「議事の概要を記載した書類」として、2010年6月14、15日開催の政策委員会・金融政策決定会合で承認されたものである。

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合（引用は含まれません）は、予め日本銀行政策委員会室までご相談ください。

引用・転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

( 開催要領 )

1 . 開催日時 : 2010 年 5 月 10 日 (11:00 ~ 12:06)

2 . 場 所 : 日本銀行本店

3 . 出席委員 :

議長	山口廣秀	( 副 総 裁 ) (注)
	西村清彦	( " )
	須田美矢子	( 審議委員 )
	野田忠男	( " )
	中村清次	( " )
	亀崎英敏	( " )
	宮尾龍蔵	( " )

(注) 白川委員は、スイス(バーゼル)で行われた BIS 総裁会議出席のため会議を欠席した。このため、山口委員が、日本銀行法第 16 条第 5 項の規定に基づき、議長の職務を代理した。

4 . 政府からの出席者 :

財務省	野田佳彦	財務副大臣
内閣府	梅溪健児	大臣官房審議官(経済財政運営担当)

( 執行部からの報告者 )

理事	井戸清人
企画局長	雨宮正佳
企画局審議役	吉岡伸泰
企画局参事役	加藤 毅
金融市場局長	外山晴之
調査統計局長	門間一夫
調査統計局参事役	関根敏隆
国際局長	大野英昭

( 事務局 )

政策委員会室長	飯野裕二
政策委員会室企画役	橘 朋廣
企画局参事役	坂本哲也
企画局企画役	中尾根康宏
企画局企画役	中村康治

## ・臨時金融政策決定会合開催の趣旨説明

冒頭、議長より、今回の臨時金融政策決定会合開催について、以下のとおり趣旨説明があった。

- ギリシャを始めとする欧州一部国の財政問題に端を発した国際金融市場の不安定さは、足もと一段と高まっており、欧州では、米ドル短期金融市場における緊張が再び高まっている。このため、その対応を巡り、この週末、G7の電話会議や欧州財務相理事会、バーゼル BIS 総裁会議などで、幅広く議論が行われた。出張中の白川総裁から、BIS 総裁会議において、主要中銀が協力して、短期金融市場における調達圧力に対処していくこと、そのために、米欧の5中央銀行（カナダ銀行、イングランド銀行、欧州中央銀行、米国連邦準備制度、スイス国民銀行）では、米ドル資金の供給体制を整備すること、が確認された旨の連絡を受けた。その上で、総裁からは、日本銀行として必要な対応を検討するよう指示があった。
- これを受けて、本日、共同声明で、米欧の5中央銀行が、時限的な米ドル・スワップ取極の再締結を公表し、日本銀行も、同様の措置の導入に向けて速やかに検討を行うことを発表した。
- こうしたことから、日本銀行として、この機会に、米ドル・スワップ取極を再締結し、米ドル資金を必要に応じて供給できる体制を整備することを検討するため、本日、日銀法第17条第3項に基づき、臨時決定会合を開催することとした。

## ・金融市場動向に関する執行部からの報告の概要

前回の金融政策決定会合以降、欧州を中心に米ドルの流動性が低下するなど、国際金融市場における緊張が高まっている。すなわち、欧州において一部国の国債利回りの対ドイツ国債スプレッドが拡大し、主要国の株価も米欧金融機関を中心に大きく下落したほか、為替相場はユーロが対ドル・円で大きく下落した。米ドル短期金融市場では、フェデラル・ファンド・レートやLIBORが上昇したほか、ドルやユーロのLIBOR-OISスプレッド（3か月物）が大きく上昇した。また、ドルの調達難を反映して、ドル転コストの対ドルLIBORスプレッド（3か月物）等が上昇した。

現時点では邦銀の外貨資金繰りに支障は生じていないほか、東京の外国金融機関でも資金繰りに大きな影響は出ていない。もっとも、

一部で市場への資金放出を控える動きもみられ、国際金融市場における緊張が東京市場にどのような影響を与えるか、注視していく必要がある。

## ・米ドル資金供給体制の整備についての執行部からの提案

最近における国際金融資本市場の状況と、これが国内金融市場の流動性に及ぼし得る影響に鑑み、金融調節の一層の円滑化を図るとともに、金融市場の円滑な機能の維持および安定性の確保に資する趣旨から、平成 23 年 1 月 31 日までの時限措置として、「米ドル資金供給オペレーション」を導入するため、「米ドル資金供給オペレーション基本要領」の制定、「米ドル資金供給オペレーションにおける貸付対象先選定基本要領」の制定、およびニューヨーク連邦準備銀行との間の為替スワップ取極の締結を提案したい。

なお、欧州の米ドル短期金融市場における調達圧力の高まり等に対処するため、本日、日本銀行を含む 6 つの中央銀行は協調対応策を公表したが、上記の措置は、これを受けて実施するものである。

## ・討議

### 1．執行部提案に関する委員会の検討

委員は、まず、最近の国際金融資本市場の動向について議論を行い、前回決定会合以降、ギリシャを巡る問題が一段と悪化したことから、欧州において、米ドル短期金融市場における緊張が再び高まっており、他の市場や他の金融センターへの波及が懸念される状況にあることを確認した。その上で委員は、執行部提案について検討した結果、わが国金融市場への影響は限定的であり、邦銀の資金繰りに支障は生じていないものの、国際協調策の一環という観点を踏まえ、予防的な措置として、米ドル資金供給オペレーションを導入することが適当との見解で一致した。その上で、何人かの委員は、金融市場の緊張の背景には、リーマンショックやその後の不況への対応から各国で財政状況が悪化したことがあり、短期的な解決は難しい問題であることから、当面の金融面の対応のみならず、財政規律の重要性を認識し、財政再建の努力を続けることが必要であると指摘した。ある委員は、今回の事態に対し欧州中央銀行が実施を表明した「証券市場プログラム」について、証券市場の機能不全に対する是正策と位置付けられるものである、と指摘した。

## 2. 当面の金融政策運営に関する委員会の検討

委員は、次回5月20、21日の決定会合までの金融市場調節方針について、前回の決定会合後、経済・物価動向に関する新たな統計等の公表は殆どないことから、「無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0.1%前後で推移するよう促す」という現在の調節方針を維持することが適当である、との見解で一致した。

### . 政府からの出席者の発言

財務省の出席者から、以下の趣旨の発言があった。

- 今般の提案は、G7の中央銀行が協調して金融の安定化に向けて取り組む措置の一環を成すものであり、政府としては、日本銀行の迅速な対応を評価したい。

また、内閣府の出席者からは、以下の趣旨の発言があった。

- 日本銀行が、急速に変化する国際金融市場の安定確保に向け、欧米中央銀行と協調してドル資金供給オペを再開することについて、迅速かつ的確な対応として評価する。
- 政府としても、国際金融資本市場の動向およびその我が国経済への影響に引き続き注視し、適切に対応していく。
- 日本銀行におかれては、引き続き政府と密接な情報交換・連携を保ちつつ、適切かつ機動的な金融政策運営によって早期のデフレ克服を目指すとともに、経済を下支えするよう期待する。

### . 採決

#### 1. 「米ドル資金供給オペレーション基本要領」の制定等

採決の結果、前記執行部提案が全員一致で決定され、適宜の方法で公表されることとされた。

#### 2. 金融市場調節方針

議長からは、委員の見解を取りまとめるかたちで、以下の議案が提出され、採決に付された。

#### 金融市場調節方針に関する議案（議長案）

次回金融政策決定会合までの金融市場調節方針を下記のとおりとし、別添のとおり公表すること。

記

無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0.1%前後で推移するよう促す。

採決の結果

賛成：山口委員、西村委員、須田委員、野田委員、中村委員、  
亀崎委員、宮尾委員

反対：なし

欠席：白川委員

・議事要旨の承認日程

本日の臨時決定会合の議事要旨については、実務上の制約を考慮し、6月14、15日の会合で承認、公表することとされた。

以 上

(別添)

2010年5月10日

日本銀行

## 当面の金融政策運営について

日本銀行は、本日、政策委員会・金融政策決定会合において、次回金融政策決定会合までの金融市場調節方針を、以下のとおりとすることを決定した(全員一致<sup>(注)</sup>)。

無担保コールレート(オーバーナイト物)を、0.1%前後で推移  
するよう促す。

以上

---

(注) 賛成：山口委員、西村委員、須田委員、野田委員、中村委員、亀崎委員、宮尾委員。  
反対：なし。欠席：白川委員。